

第 3 回 練馬区教育振興基本計画懇談会要点記録

- 日 時 平成 23 年 11 月 2 日 (水) 18 : 30 ~ 20 : 45
- 場 所 本庁舎 19 階 1903 会議室
- 出席者 廣嶋座長、小林副座長、風間委員、渡邊委員、石橋委員、眞瀬委員、木下川委員、高井委員、田中委員、玉井委員、伊藤委員、斉藤委員、佐藤委員、長井委員、真島委員
- 欠席者 宮崎委員
- (事務局) 学校教育部長、新しい学校づくり担当課長、学務課長、教育指導課長、総合教育センター所長、統括指導主事、庶務課長、庶務課庶務係職員 2 名、ジャパン総研 2 名

案 件

- (1) 基本的な視点について
- (2) 今後 10 年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿について

配布資料

- (1) 練馬区教育振興基本計画 基本理念、基本的な視点等の体系図 ……資料 1
- (2) 練馬区教育振興基本計画に係る意見シート記載内容一覧 ……資料 2
- (3) 意見シートからの主なキーワード ……資料 3

1 . 開会

【座長】

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただ今より、第 3 回練馬区教育振興基本計画懇談会を開会します。

2 . 議事

(1) 基本的な視点について

事務局より、資料 1、資料 2、資料 3 を説明

【座長】

本日は、「基本的な視点について」と「今後 10 年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿について」の検討を行います。

まず、基本的な視点について、資料 2、3 を参考にしながら、各委員の思い、ご意

見等を伺いたいと考えています。

1 番目の「教育の質の向上」については、全ての委員からご意見を伺いたいのので、順番にご発言いただきたいと思います。

【委員】

資料3の「教員について」の中に、教員の多忙化とありますが、私は、なぜそれほど先生方が忙しくなってしまったのか、不思議でなりません。

幼稚園の立場から申しますと、小学校の先生たちには、子供たちと一緒に遊ぶ時間を多く持っていただきたいと思っています。今、学力ばかりが声高に言われていますが、勉強や生活の指導だけではなく、子供と一緒に遊ぶことで、子供たちと先生がよく分かり合えると思うのです。勉強のあまり得意ではない子供も、先生を慕ううちに、自分で自分の将来を決めていくような力が身に付くということもあると思います。教育においては、そういう部分も非常に大事だと思いますので、ぜひ、先生方は子供たちともっと親しく遊んでいただきたいです。

【委員】

今のご意見と同じく、先生方を見てみると、とてもお忙しそうで、子供と遊ぶ時間がほとんどないように感じます。一方で、先生の個人差も大きいと感じます。

また、今、小学校1年生が学級崩壊しているところが多いですが、その改善には、幼稚園、保育園、学校の連携が必要だと感じています。

【座長】

連携については、資料2にキーワードとして入っていますね。

【委員】

私も、やはり先生方は、子供と関わる時間や、授業の準備の時間が欠乏していると感じます。

また、私は、意見シートに「人間関係・コミュニケーション力不足」ということを書いたのですが、中学生が職業体験で保育園に来ており、実際に体験をすることで、何か感じ取ってもらえればと思っています。また、保育園は命を預かっているところなので、そういう体験を通して命の大切さなども学んでもらえればと思っています。

【座長】

「課題解決のアイデア」にある「ボランティア活動の充実」などは、取り入れてもらいたいと私も思います。

【委員】

子供たちにはいろいろな職業や様々な体験をしてほしいので、ぜひそういうことも計画に入れていただきたいと思います。

【委員】

教員に時間がないとか、学校に求められることが多極化しているという課題が挙がっていますが、現状、相当頑張っておられるにもかかわらず、そういう状態にあるということは、その問題の根本を見極めなければならないのだと思います。現状で、できることとできないことがあるとは思いますが、少なくとも今のままではそこを打開することはできないので、違う視点から考えていくことも必要だと思います。

【委員】

私は校長という立場から、学校教育の質の向上について意見を述べたいと思います。

まず、一番重要なのは人材の育成だと思っています。人的・物的に環境を整備した中で人材育成をしていけば、教育の質は向上すると考えます。具体的には、校内研究等を行うことで育成するということが考えられますが、その際には、教員の負担を増やさないために、必ずスクラップ・アンド・ビルドをすることも必要です。そういう環境整備のマネジメントは、校長の重要な仕事と考えています。

2点目には、環境の整備が重要だと思っています。現状では、学校にいろいろなことを持ち込み過ぎて、学校が飽和状態になっており、大きな問題となっています。ですから、このような基本計画の中で、ぜひ、学校に持ち込むものを少なくすることを真剣に考えていただきたいと思います。

3点目は、家庭環境です。困難な状況にある家庭があっても、学級担任や校長は家庭の中に入っていく権限はありません。そこで、学校に代わって、家庭の中にきちんと入ってフォローできるような専門的な機関が必要だと思っています。

以上のようなことが実現すれば、教育の質は向上できるのではないかと考えます。

【座長】

3点目の専門的な機関というのは、学校教育支援センターとは違うものをイメージされているのですか。

【委員】

子ども家庭支援センターが関わるのは、かなり困難なケースです。そこに至る前のグレーゾーンの段階で、もっときちんと支援する必要があると思っているのですが、そういう段階では、見極めも難しく、また、無理に入っていくと、逆にトラブルになってしまう可能性もあります。

【座長】

今まで、5人の委員の意見を伺う中では、とりわけ教師の多忙化や疲弊に関する意見が多いように思います。この解消については、文部科学省や東京都も取り組むと言っていますが、なかなか実現できないようです。どこまで踏み込めるか分かりませんが、我々も検討しなければならないと思います。

【委員】

私も、教育の質の向上には、教員の指導力の向上が不可欠だと思います。先ほどから教員が忙しいという話が何度も出ていますが、今は子供も少なく、各クラスの人数も昔と比べて半分くらいしかいないのに、なぜ忙しいのかが分かりません。その辺りを徹底して改善して、教員の質をもっと上げてほしいと強く望みます。

【委員】

私も、まずは、教員の質ということが重要だと思います。今、なぜ忙しいのかというご意見がありましたが、学校に見に来ていただければよく分かると思います。確かに、子供の数は少なくなっていますが、今、40人学級で、ぎりぎり40人というクラスが多いのです。その上、今の子供は昔の子供に比べて、非常に手がかかるのです。

また、教員は、休み時間に子供と遊びたくても、授業の準備や保護者との連絡帳の対応をはじめ、細々した雑務まで多種多様の仕事を休み時間の中にこなさなければならず、給食を食べる時間もないほど忙殺されているというのが実情です。それが毎日続くため、熱心であればあるほど、疲弊するという状況なのです。

【委員】

それでは、子供の教育について、親に望まれることはありますか。

【委員】

まずは、教員の状況を聞いていただきたいと思います。

今、若い教員が増えており、教員になって間もない人は、教材研究や準備に時間がかかるので、毎日夜遅くまで残っていますし、個人情報の問題で仕事をもち帰ることができないので、土日も出て来て準備しています。そういう中で、教員研修や他学校の授業研究等もあるのですが、今、少子化で教員の数も削減されているため、出張している時間に、代わりに教えてくれる人もおらず、学期中の長期の研修等に参加するのはまず不可能です。また、夏休みも、プールや個別指導、個人面談等もあり、休みを取れない状態です。

以前、韓国の学校の視察に行ったのですが、韓国では、英語教員を3カ月～1年間、アメリカに派遣する制度があり、その研修中には代わりの教員を用意してもらえると

ということでした。すぐにはできないとは思いますが、練馬区でも、そういうことを考えていただければと思っています。

家庭に望むことについては、今、教育に熱心な保護者と、子供に目が向かない保護者に二極化しており、後者の底上げをしていかなければならないと思っています。また、そのような保護者は孤立しているとか、問題を抱えているケースが多いので、そういう人たちの心の支えとなるような、子ども家庭支援センター等の人員の充実も必要だと思います。

【座長】

学力の二極化ということも、ここに課題として入っていますが、これは家庭の教育力とも関係があるとお考えですか。

【委員】

そう思います。

【委員】

最近、先生と生徒の会話で、生徒が先生のことを「ちゃん」付けで呼ぶことがあると聞き、教育が非常に墮落していると感じています。その大きな原因は、言葉遣いについての指導力のなさだと思いますが、もう一つは、教員の服装もあると思います。体育の授業でもないのにトレーナー姿で靴のかかとを踏んでいるような教師を見かけますが、そのような心構えだから、生徒から友達感覚で見られるのだと思います。

「教員について」に関しては、「指導力の向上」が挙がっていますが、教員には、ぜひいろいろな体験を積んで人間的に大きくなってほしいと思います。体験を通じて、どうすれば指導力を発揮できるかということ、自分自身で考えてもらいたいと思っています。

「学力について」では、私は、学校も企業理念を取り入れるべきだと考えます。つまり、学習に競争を取り入れること、そして、数値目標を決めてきちんと評価することが重要だと思っています。また、先ほど、二極化という話が出ましたが、下の人を引き上げるというのは大変なので、上の人を伸ばすことで学力の向上を図るべきだと思います。

「徳について」では、武蔵学園の園長である有馬氏も言われているように、体験活動をすることで徳が生まれると考えます。体験活動を通じて社会のルールや知恵が備わるからです。したがって、体験活動を大いにやっていただきたいと思っています。私がやっているボランティアでも、必ず体験を入れています。今、総合学習の時間が減っているとか、やることなく困っているという話を聞きますが、これをどう活用するかは教員の技量です。ぜひ外部の人を活用して、子供たちの体験の機会を増やしてほしいと思います。

【委員】

私は、教員の質の向上と、就学前教育と小中学校の連携が課題だと思っています。

教員の質の向上については、先ほどから話が出ているように、学校も幼稚園も非常に忙しくなっているということが大きな問題だと思います。幼稚園でも、つぎの日の保育のための準備や研修等はとても大切なのですが、そういう時間の確保が難しい状態です。その時間をつくるためには、煩雑な事務を整理してスリム化する必要があると思います。

また、今、人数は少なくなっていますが、一人ひとりに非常に手がかかるようになっており、加えて、特別な支援が必要な子供も増えています。したがって、特別な支援についての研修等も必要だと思いますし、教員だけでなく、専門の支援員や相談に関する機関との連携の充実も必要だと思います。

幼稚園・保育園と小学校の連携については、まずは家庭が基本だと思います。また、子供を産んでも、どうやって育てていいかわからないという保護者も多く、幼稚園・保育園に上がってきた段階で、既に二極化しているので、生まれた時からの支援も必要なのではないかと感じています。

【座長】

先ほどの意見に出ていた、多忙の実態が外から見た目と違うとか、家庭の問題というのは、幼稚園からつながっているということでしょうか。幼稚園も、昔と比べて、やはり多忙感がありますか。

【委員】

はい。昔とは全然違います。

【座長】

家庭への対応で苦慮しておられるということはありませんか。

【委員】

教員個人の質にもよると思います。

【委員】

先ほどから、今の教員は忙しいという意見が出ていますが、私は第1次ベビーブームの世代で、小学校の時は1クラスが50~60人でした。その中には実に様々な子供がいましたので、当時の先生は今の先生よりも忙しかったのではないかと思います。また、企業で働く人間にとっては、仕事の準備を家ですることや、休日出勤、土日の出張等も珍しくありませんでした。私たちは、それを忙しいとは思わず、当然のことだと考

えて働いてきましたから、学校の教員が忙しいと言われても、理解できないというのが率直な感想です。

親の教育については、私も必要だと思っています。若い世代の親を、父親も含めて、子供と一緒にうまく教育していくことができれば、教員の忙しさも軽減できるのではないかと思います。

また、私は理科系出身ですが、今の子供は理数系の能力が落ちていると感じます。経験豊富な優秀な企業OBの方で、教育に協力したいと思っている方々は多くおられると思うので、ぜひ、そういう方々を活用してほしいと思っています。外部の人を使うことによる業務が増えるかもしれませんが、そのことで新たな面の教育が生まれるということもあるのではないかと思います。

また、関東では、一般的に、公立はレベルが低いという印象を持たれているので、公立学校のレベルを高めることを考えなければならないと思います。そのためには、やはり競争力を培うことが重要だと考えます。

【座長】

学力をきちんと付けさせることが重要で、その改善策を考えなければいけないということ、そして、人材資源の活用も必要というご意見でした。人材の活用については、システムをつくらないと実現しにくいと思いますので、私たちからも解決策のアイデアを出していかなければならないと思っています。

【委員】

保護者の立場からの厳しい意見も出ていますが、私は何年も学校と接していて、先生方は本当に年々忙しくなっていると実感しています。教育の質の向上を考える上では、保護者と学校が、お互いの立場を重んじ合った付き合いをすることも大切だと思います。今は、学校と家庭の付き合い方が個別になってしまっており、問題があった場合、PTAを通さず直接学校や教育委員会に持ち込んでしまうというケースも多く、そのことで、さらに学校を忙しくしているというのが実情です。そうではなく、私たち保護者は、教員を応援して、支え、育てていくような気持ちも必要だと思います。細かなことですぐに苦情が来るような状況では、先生方のやる気も盛り上がりません。お互いの立場を認め合って、適切な距離感を持って付き合い合えるよう、もう一度考え直していかなければいけないと感じています。

【委員】

教員の指導力の向上について、今は、若い人が教員になりたがらないという話を聞きます。良い人材を得るためには3倍以上の倍率が必要と言われてはいますが、現状は2倍くらいしかなく、その時点で良い人材の確保が難しいというのが現実です。さら

に、教員になっても、管理職になりたがらないという現象も起こっていると聞きます。副校長になるとクレーム処理係のようになってしまうため、避けているということのようです。こういう状態では良い教員は育つはずがないと思いますので、教員という職業が魅力的なものとなるよう、方策を講じる必要があると感じています。

また、現在、教員の人員がぎりぎり、先生が研修に行かれたときに、代わりの先生がいらないというような状態にも問題があると、保護者として感じていました。そういう場合のサポートのシステムも必要だと思います。

教員の多忙については、要因の1つとして書類作成が多過ぎるということもよく聞くので、その点の改善も必要だと思います。また、時々、パソコンのデータを持ち出して事故に遭うケースがありますが、それは個人の問題ではなく、システムにも問題があると思うので、その改善策を考える必要もあると思います。

最後に、学校の情報発信力にも課題があると思います。今は各学校にホームページがありますが、ほとんど更新もされず機能してないところもあるようです。また、学校で出している広報誌も形骸化している状態なので、先生方の負担を増やすことなく、ホームページを有効に活用する方法なども、工夫してはどうかと思います。

【座長】

ホームページについては、以前にはなかった業務なので、専門の担当先生をつけるとなるとまた負担が増え大変かと思います。

【委員】

これまで、教員の質の向上について、様々な意見が出ていますが、1週間学校を見れば、いかに教員が忙しいかが分かると思います。昔の教員は、黒板で授業をして、休み時間や放課後に子供たちと遊ぶというのが主な仕事でしたが、今は余計な仕事が多過ぎるのです。また、クラスに2人以上徘徊をするような子供がいるというケースで、その子の対応で、そのクラスだけではなく周囲のクラスまで授業が成り立たないという状態も少なくありません。さらに、保護者からのクレームも毎日のようにあるということで、教員も校長もそういうことの対応に振り回されておられます。教育の質の向上ということを本当に考えるのであれば、そういう子供たちを何とか勉強に目を向けさせるように、支援員を付けるなどの支援をする必要があると思います。そこで、私たちPTAでは、親たちが授業を見に行き、注意をするというようなこともしています。

また、PTAというのは子供たちのためにあるべきなのに、現状は、保護者が保護者を教育する場となってしまっています。先ほど、先生のことを「ちゃん」付けで呼ぶという話がありましたが、家庭でも、父親のことを「くん」付けで呼ぶとか、母親を呼び捨てにしているところもあり、それを良い親子関係だと思っている保護者がいます。そういうところから既に大きな認識のずれがあるのです。質の向上や子供たちの将来を

考えるならば、まず、そのような保護者を何とかしなければならぬということも、同じ保護者として切実に感じています。

【座長】

質の向上については、教員の問題と同時に保護者の問題もあるという意見が多く挙がりました。これは、2番目の視点である家庭・地域との連携のところとも関係してくると思います。

体力についてのご発言がまだありませんが、ご意見等はありませんか。

なければ、2「家庭・地域と連携した教育の実現」と、3「教育環境の充実」について、まとめてご意見をいただきたいと思います。

【委員】

昔は、先生も地域に育てられるという面がありました。子供たちについても、そのような形で、学校の道德の授業だけではなく、日常の地域社会の中で人との関わりを持つことで身に付くものがあるのではないかと思うので、職業体験など人と関わるようなことを子供たちにさせたほうがよいと思います。

【座長】

ここまでで、課題についてはたくさんのご意見をいただいていますので、課題解決のアイデアについての意見もいただければと思います。

【委員】

地域、PTAの弱体化や、触れ合いの減少という問題が、この公募委員に応募しましたきっかけでもありました。

練馬区だけでなく他の自治体でも、学校選択制を取り入れているところは、PTAの弱体化が起きていると聞いています。学校選択制になってから、いくつもの学校から子供たちが来るために、PTAの役員のなり手がいないとか、人間関係がうまくいかないとか、さらに、学校との連携もとれなくなっているという学校もあります。また、一方で、学校側も問題を隠すようになり、私も子供のクラスで学級崩壊が起きていることを全く知りませんでした。地域の人が入って何とかしようとしても、学校側が拒否するようなことにより、保護者と学校との信頼関係もなくなったということがありました。来年度からは、学校選択制は縮小されるということも聞いていますが、部活をやりたい子供や、いじめのケースなどについてのみ個別に融通するという特例を認めるのはよいと思います。制度をなくすというのは問題もあるので、そのような特例のみを認め、縮小する方向で動いていってほしいと思っています。

【座長】

一通り委員のご意見を伺ったあと、事務局から回答できるものがあれば、お願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【委員】

学校選択制については、小学校を出ると他の地域の中学に行くということで、保護者がPTAや地域のことに無責任になっているという話を聞いたことがあります。そのようなことも含め、私も、中学校の選択制には問題が多いように感じています。

【委員】

学校選択制については、現実には、区が思い描く選択の形にはなっていないと思います。建前では、好きな部活動を子供にやらせたいなどという理由を挙げていますが、実は、特定の子供と同じ学校に行かせたくないとか、学校が荒れているという噂を信じて、その学校を避けるというケースも非常に多いのです。また、部活動を理由に選択したとしても、教員の異動によって、その部活自体がなくなるということもあります。そうすると、翌年はそこに行く子供が激減するというようなことの繰り返しで、大きな学校はさらに大きく、小さな学校はさらに小さくなっていくという悪循環が起こっています。

このようなことから、やはり、基本的には地域の学区域制を維持しながら、いじめに遭っている生徒などについては、例外的に他の学校に誘導するという仕組みのほうが望ましいと思います。他地域の中学に自由に行けるような制度の下では、地域を大切にすることも持てず、地域に子供も家庭も根付かないと思います。

【委員】

今は中学校を選択できるということを、私は知りませんでした。話を聞いていると、確かに、学校選択制というのは地域のつながりが薄れる要因となると思います。小学校のときには、地域の中でのつながりや上下関係もできていると思うので、それを発展させて、少し大きなグループで地域の活動に参加するような形ができればいいのではないかと思います。そこで横のつながりができれば、選択制だったとしても、みんなで同じ中学に進みたいということになるのではないかと思います。

クラブ活動については、全国大会に行くような部活動のあるところに行きたいという気持ちも分かりますが、そういう子供ばかりが集まっているというのは、ある意味、いびつに感じます。それよりも、スポーツが得意な子も不得意な子も、また、勉強ができる子もできない子も一緒にやっけていく中で、競争や助け合いを学んでいけるような環境のほうが望ましいと考えます。

【委員】

中学校の選択制については、私も保護者からいろいろな話を聞いており、課題は大きいと感じていました。

幼稚園の場合は、もともと学区域がなく地域が広範にわたるため、地域とのつながりが薄いのです。したがって、家庭と地域と幼稚園の連携は非常に重要と考えています。幼稚園に好意的な方もおられる一方で、幼稚園をうるさいと感じている方もおられるので、そういう方を含めて、地域との関係づくりをしていかなければならないと思っています。夏祭りなどの、幼稚園と家庭・地域と一緒にできる行事を通して、地域の方とのつながりを深めていければと思っています。

【座長】

就学前教育については、意見はありませんか。

【委員】

就学前教育においても、家庭や地域と連携が重要だと思います。連携をとることによって教育の質の向上が上がっていくと思うので、連携と教育の質の向上とは関連があると思います。また、連携の前に家庭の教育の問題があると思います。

【委員】

私は、地域と学校をつなげる取組として、カブトムシの育成や、学校内の樹木調査、昔のおもちゃ作りなど、様々な活動を行い、そのような経験を通して、工夫をすることや、遊びの中の勝ち負けから競争力を付けることを、子供たちに伝えてきました。

そういう活動において子供たちと関わる中で1つ感じたのは、リーダーがいないということです。昔は、必ず級長がいましたが、成績で選ばれるわけではなく、先生の判断でリーダーにしたりしていたものです。安全マップを作ったときには、先生がリーダーを決めたことで、統一がとれて非常にいい形でできたので、やはり、リーダーの存在というのは重要だと痛感しました。

また、学校を取り囲む地域には、町会、任意団体等、数多くの団体がありますので、学校のほうから、もっと提案をしていただきたいと思います。学校は閉鎖的にならず、もっと地域とコミュニケーションをとっていただきたいと思っています。そうすることで、外の人間の違った考え方も生かしていただければと思います。

家庭教育については、学校や塾だけに教育を任せるのではなく、家庭でも父親や母親がカリキュラムを組むなどすることが望ましい。

中学の選択制については、私も反対です。友達がみんな離れてしまうという話をよく聞きますし、地域のつながりを深めるためには、中学は学区制のほうがいいと思

ます。

【委員】

まず、地域との連携について、私の学校のPTAはとてもよくやったださっているのので、できれば2年やっていただきたいのですが、1年で交代されます。また、町会も、新しく引っ越して来た人がなかなか町会に入れないと聞いています。そういう状況のため、積極的に教育や学校のことを協力をしてくださる方が、地域の中で増えていないということが大きな問題だと感じています。

私の学校では、今、練馬大根でたくあんを作るという取組を行っているのですが、地域の方に、土地を提供していただいたり、大根の育て方を習ったり、たくあんの漬け方の指導していただいたりしてできたたくあんを自分で食べておいしいと感じるといのは、地域に根ざした本当の生きた教育だと思います。ところが、そのお手伝いをしてくださる方が、少なくなっているのです。

杉並区では、元PTAで役員をしていた方がネットワークをつくって、人やお金を集めて、学校の行事のお手伝いを行うというシステムがありますが、練馬区でもそういうネットワーク等を立ち上げるなどしないと、今のままでは、心ある方が疲弊してしまうと思います。もちろん学校側の努力も必要だと思います。

家庭については、先ほどのご意見のように、例えば、子供が生まれた時からのサポート等もしていく必要があると思います。そういう課題を、具体的に一つずつ解決していかないと、先には進まないのではないかと考えています。

【委員】

今までの話を聞いていて、練馬区はなぜ学校選択制にしたのか疑問に思います。スポーツクラブの盛んな中学や、偏差値が高い中学へ生徒が集中することにメリットがあるのでしょうか。

町会については、私の地域でも、町会に入らない人がおられます。また、子供の数が非常に少なく、集団登校もできませんし、夏休みのラジオ体操も3日間しか行われていません。そういう状態なので、一層、町会に入るメリットがなくなっているというのが実情です。PTAの活動についても、以前は子供も含めた隣近所同士の交流がりましたが、今はそういうことがなくなりました。

そこで、このような地域のつながりの希薄な状態を改善するためにはどうしたらいいのかと、私なりに考えたのですが、地域の中には、学校に協力したいと思っている人はたくさんいると思うので、学校の中に、地域とのつながりを担当する職員を置いていただくといいのではないかと考えています。

【委員】

地域とのつながりについて、学校の取組の紹介も兼ねてお話ししたいと思います。

今、中学校ではキャリア教育の実践が広がっています。先ほど、体験が足りないのではないかというご指摘がありました。それは全くの誤解で、学校は体験を重視したカリキュラムを組んでいます。練馬区の場合は、地域の商店街や会社などに、2～3日間、体験活動に行くのですが、私の学校では、魚屋の体験を希望し、毎日4時半に魚河岸についていったという生徒もいました。そういうことを通して、働くことの尊さとか、働く上ではあいさつや礼儀が基本だということを学んでいます。その後、各生徒は自分の体験をレポートにまとめてみんなの前で発表し、それを下級生にも聞いてもらっています。私の学校は小中一貫教育校なので、6年生も先輩達の体験している姿を見学し、レポートを書くという取組も行っています。

これで十分とは思いませんが、この先10年の教育を考える際には、練馬区中学校におけるこうした取組も参考にさせていただければと思っています。

2点目も、同じく地域との連携に関係するのですが、今、地域の人による学校評価を取り入れ始めています。これは、まさに家庭・地域との連携の実践だと思っています。先ほど、学校が開かれていないというご指摘がありました。学校としては、相応に開くという決意と覚悟をもって、地域の方の力を生かしていきたいと考えています。ただ、無償ボランティアという形で来ていただくので、実際には、年間に何度も学校に来ていただくことは難しいと思いますが、可能であれば、いつでも来ていただきたいと思っています。

学校評価についても、学校と地域の連携という面で、非常に有効なシステムだと思っていますので、より磨きをかけていかなければならないと思っています。

3点目は、東日本大震災の教訓も踏まえ、地域と連携して、それなりの防災教育を行わなければならないと思っています。練馬区は、学校を避難拠点とした非常に進んだシステムを持っています。学校と地域と連携という観点においては、防災教育の視点も非常に重要だと考えます。

【座長】

「教育環境の充実」の中に防災教育ということが挙げられていますが、防災教育については、至急立ち上げていく必要があると、私も思います。

キャリア教育についても、さらに進めていく必要があると思っています。

【委員】

私は、学校の特色化が重要だと感じています。学校選択制には問題もあると思いますが、反面、選ばれるために工夫し、アクションを起こすことにもつながるし、問題点を考えて改善する契機にもなり得るのではないかと考えます。そのため、デメリットばかりではなく、やりようによってはメリットもあるのではないかと、今の話を聞

きながら、思っていました。

地域との連携については、練馬区は企業が少ないため、学校に社会を取り入れていくということが難しい面もあるのではないかと思います。他区では、「渋谷大学」や「世田谷ものづくり学校」のように、社会人のための勉強の取組が行われています。練馬区でも、学校の施設を利用して、そのような社会人のための学校をつくったり、あるいは、企業の展示会等を学校で行うことで、地域の人を呼び込めることなども考えるのですが、学校に相談しても、そんなことはできないと閉ざされてしまうケースがほとんどで、チャンスを自ら減らしているように感じました。

そこで、私は、学校の「見える化」が重要だと考えます。学校からの情報発信や、受け入れる姿勢を見せるところから始めなければ、単に学校は頑張っていますとか、ボランティアに来てくださいと言うばかりでは、伝わらないと思います。足を運んでもらって、はじめて理解されると思うので、今後地域社会と連携するためには、まずは、誰でも来れる環境をつくることも必要だと思います。

【委員】

地域の弱体化という課題については、学校と地域のネットワークづくりが必要だと思います。地域の中には、様々な力が多くありますので、ネットワークを通してそういうものを活用できればいいと思います。

生まれた時からの子育て支援については、自分の子育てだけでなく、他の子供たちも一緒に育てていくという気持ちを保護者が持つことも重要だと感じています。

【委員】

今までの話を聞いて、2番の中の「学校・家庭・地域の連携」が、今一番必要なことではないかと感じています。学校応援団などは、学校・地域・家庭が連携できている1つの例だと思うのですが、先ほども話があったように、リーダーになる人や参加する人が同じ人たちばかりになっているので、どのようにして新たな人たちを引き込むかというのが大きな課題だと思います。

子供が生まれた時からの支援については、今、妊娠された方に保育園の見学をしていただくというような試みも行われていると思います。また、今、精神を病んでいる保護者も多いので、その辺りをうまくバックアップして、子供が安心していれる居場所づくりをすることも大切だと思います。家庭を育てるには、保健相談所をはじめ、いろいろな関係機関が連携しないと、難しいと思います。

【座長】

家庭の問題というのは非常に大きいので、具体的な解決策となると、なかなか決定打はないというのが実情だと思います。

【委員】

学校と地域のつながりについて私が気になるのは、最終的には、結局、学校の仕事が増えるという悪循環に陥るのではないかということです。この点については、やはり、国とか行政が、教育ということを根本的に考えてもらわないと解決しないと思います。先ほど、人員不足の上、書類が多過ぎるという話がありましたが、幼稚園においても、例えば、特別支援教育を導入した際に、園内に特別支援委員会をつくりなさいとか、個別の指導計画をつくりなさいなど言われ、書類や手続きは増える一方で、障害児を受け入れるだけでも大変なのに、それに伴う書類等に忙殺されている状態でした。

したがって、学校と地域の連携を考える際には、対地域のコーディネーターを学校に配置するなどしていただきたいと思います。また、家庭に関しては、専門の臨床心理士を各学校に配置する必要があると思います。

しかし、国は今、男女共同参画ということで、女性も働くことを進めています。そうすると日中地域に人がいなくなり、PTA等は成り立たなくなります。地域との連携と言いながら、国は矛盾したことを同時に推進しているのです。今後10年を考える上では、まずは、このような負のスパイラルを断ち切らなければならないと思います。そのためには、行政として、教育にお金をかけるとともに、腹を据えて問題解決に当たっていただかなければならないと考えます。

【座長】

事務局からコメント等がありますか。

【学校教育部長】

教員数については、東京都の基準で定数が決められています。区独自に様々な非常勤職員を配置していますが、さらに充実していきたいと考えています。また、学級崩壊や支援を要する子供への対応についても、かなりの経費をかけて支援員を配置しています。職員の研修についても、様々な形で行っております。

教員の多忙化については、学校の情報化を進めて、教員の事務の効率化を図りたいと考えています。ただし、オンライン化することによって、新たな作業が増えるということも考えられるので、全体をよく見ながら進めていかなければならないと思っています。

【学務課長】

学校選択制については、ご指摘のとおり、学校間の生徒数の格差があることは大きな問題だと認識しています。選択制が始まった後、平成20年に一度検証をしたのです

が、光が丘地区は、希望者を全員受け入れていたことにより、区域外からの生徒が7割に達したため、そのような極端な状態を改善するため、昨年より抽選を取り入れました。区としては、学校間の格差の拡大がこれ以上広がらないようにしたいとは思っていますが、依然、大規模校に集中してしまう傾向があるため、各校とも生徒確保に向けて努力しています。昨年度は選択制で中学に進学した生徒は15%くらいであることから、学校選択制が原因で地域とのつながりが希薄化しているというご指摘もありましたが、大半の生徒は学区域の学校に入っていますので、つながりの希薄化については、ほかの課題も含めて考える必要があるのではないかと考えています。

また、各方面より、学校選択制には課題が多いという指摘や、2回目の検証も必要との意見もいただいておりますので、そういう事実を重く受け止め、今後、検討を重ねていく必要があると思っておりますが、まだ明確にお答えできる段階ではありません。

【学校教育部長】

地域活動が学校や家庭の教育力にも影響しているとの指摘が多くありましたが、教育委員会だけでなく、区を挙げて、地域活動の活性化に取り組まなければならないと考えています。地域活動が活発になれば、家庭の教育力や学校の運営にプラスになってくるであろうと考えています。

【教育指導課長】

人的支援については、他区と比較しても、練馬区はかなりの費用を投じて人員配置をしています。先ほどの、学校が家庭の中に入っていくことは難しいというご意見を伺って、今後は、その部分をフォローできるような人材の配置も考えていく必要があると思いました。

更なる地域の人材の活用については、活用することが目的ではなく、子供の学習のねらいを達成するために人材を活用することが目的です。やみくもに地域の方に依頼するのではなく、どのような方に、どんなことをお願いすれば子供の学習効果が上がるかを考えるべきである。そのことを念頭に置いて、適切な人材を活用できるような仕組みを考えていかなければならないと考えています。

家庭・地域と学校との連携で大事なものは、実質的に連携することです。実質的というのは、いいときは何も言わないが、学校に課題が出たときに学校を非難するのではなく、学校が苦しんだり悩んでいるときにこそ学校と一緒に考えていくことが、本当の意味での連携だと思います。学校選択制については、否定的なご意見もいただきましたが、単に保護者のニーズに応えるためではなく、学校と家庭・地域とを実質的に連携させるといふ狙いもあるのです。選択制にすることで、学校の中を見えるようにし、そこで見えてきた課題を、保護者や地域の方と一緒に解決していければと考えています。選択制には、そういう学校の力を高めるという面もあるということをご理解いただ

ければと思っています。

(2) 今後 10 年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿 について

【座長】

資料 1 を埋めていくことが、これから先の作業となります。終了予定時間になりましたが、今日のご意見を踏まえて、次回いくつかの案を準備したいと考えていますので、資料 1 についても少しご意見をいただければと思います。

【委員】

学校選択制について、今、事務局から説明がありましたが、現実には、説明とは逆に、学校は選ばれるために問題を隠してしまう結果になっています。また、学力向上という面から見ても、噂や風評により保護者が感情的に動いてしまい、学力の高い生徒は光が丘に行ってしまうという現象が起きています。学力の上位の子が抜けてしまうのは影響が大きく、中位の子は上位の子に引上げられるということ面もあると思います。当初事務局が考えていたことが別の方向に動いてしまっているということはおさえておいてほしいです。

私立と公立は個性が全く違ということを、区はきちんと認識していただきたいと思っています。努力をしなければ選ばれないというような部分は私立中学に任せておいて、公立は本来の個性である地域性というものを大事にするべきです。これは、練馬区の義務教育を考える上で非常に重要なことだと思います。

【座長】

とても難しい問題ですが、この懇談会は学校選択制について決めるような会ではありませんので、練馬区には、今日いただいた意見をしっかり受け止めて、課題を少しずつ解決していく方向で動いていただけるものと思っています。

【委員】

資料 1 には、地域性が全く入っていませんので、ぜひ地域性を出していただきたいと思っています。

練馬区の基本構想には協働という言葉が必ず入っています。また、環境教育が来年 10 月から本格化しますが、練馬区は、緑被率、農地ともに 23 区中トップという環境に恵まれていますので、そういった環境を活かす教育をすることで、知も徳も生まれ、学力も引き上げられていくのではないかと思います。また、練馬区は、住民の出入りが激

しく、毎年4～5万人が出入りするという流動的な人口構成になっています。光が丘では、人口が当初から1万人減少して、高齢率は25%に及んでいます。そのような地域性も踏まえ、協働と恵まれた環境ということを経験性として、今後10年の教育にぜひ取り入れていただきたいと思います。

【座長】

基本理念としては、この資料1の中のどれがいいと思われますか。

【委員】

私は、7番目の「恵まれた環境と地域が協働して人と人をつなぐ人間性豊かな練馬の教育」がいいと思います。

【座長】

他にご意見はありませんか。

【委員】

今、要支援の児童や家庭が非常に増えており、その部分の底上げも必要と感ずるので、特別支援について、どこかに織り込んでいただければと思います。

【委員】

今、練馬区は、保育園の待機児童が23区の中でも多いと聞いていますので、保育園の待機児童については、重要な問題だと思います。

【座長】

他にはいかがですか。

なければ、最後に、副座長からご意見をお願いしたいと思います。

【副座長】

教員の多忙化については、民間のほうがもっと多忙だというご意見もありましたが、教員の業務が増えていることも事実です。それは、システムの問題よりも、社会・文化が発展し、成熟して多様化してきているために、学校だけではなくどの社会においても、多様化したニーズに応える必要が出てきているということだと思います。

これは練馬区の教育振興基本計画ですので、現状をどう見るかということよりも、歴史を振り返った上で、未来を見ていかなければならないと思います。歴史的に見ると、学校というのは国民皆学に始まり、公立学校というものが生まれました。その中では、みんな同じものを提供することが求められていましたが、現代は、社会が成熟

して様々なものが求められるようになりました。私学指向はそういうところにマッチしたということがいえると思います。

そこで、練馬区の教育については、今後、「特色」ということが非常にキーワードになるのではないかと考えます。公立学校は義務教育ですから、当然、みんなに同じものを提供するということが最低限保障しなければなりません。今後は、さらに、それに様々なものを付加して、児童・生徒や家庭のそれぞれのニーズに応じて提供するというところまで、踏み込んでいかなければならなくなると考えます。学習指導要領は、戦後、7回改訂される中で、平成10年に「特色」という言葉が初めて使われました。また、近年、競争というキーワードも入ってきます。学校教育に競争は必要かと問われると、私は、常に「競争は必要ですが、それは企業の「勝つか負けるか」という競争ではなく、特色で競う競争です」と答えています。勝ち負けではない特色を出していきましょう。

学校選択制についても、同様だと私は考えています。今全国で行われている選択制については、確かにマイナス面が大きいと思っています。なぜかという、それは本当の意味での選択制ではなく、規制緩和という視点のみの選択制だからです。しかし、学校の課題を隠すのではなく、はっきりと見えやすくして、その上で、学校とその学校を選んだ保護者が一緒に学校をつくっていくということが、本来目指すべき選択制だと思っています。小さい学校のほうがいいという生徒もいるはず。そういう特色があってもいいと思っています。

そのため、選択制が賛成とか反対というレベルではなく、今回の教育振興基本計画では、学校にどう特色を持たせるかが大きな基盤になると、今日の議論を聞いていて、あらためて強く感じました。また、そういう中で、地域の方の力を取り込んでいける部分も大いにあるのではないかと考えています。

以上が、本日の議論を聞いていて感じたことです。

【座長】

それでは、本日はここまでで、終了させていただきたいと思います。

3. その他

【事務局】

今回は、11月25日（金）にこの会議室にて行います。議題としては、本日の意見を踏まえて、案をまとめてまいりますので、それについてご議論願いたいと考えています。第5回は12月中旬を予定しています。

【座長】

それでは、以上で第3回練馬区教育振興基本計画懇談会を終了いたします。本日は、
どうもありがとうございました。

(終了)